

科目名	グローバル社会概論	授業形態	講義
英語科目名	Introduction to a Global Society	開講学期	2022年度前期
対象学年	カリキュラムにより異なります。	単位数	2単位
代表教員	玉村 健志	ナンバリング	4101
担当教員	玉村 健志、佐々木 優、太田 有子、藤森 浩樹、望戸 愛果		
授業概要			
全体内容	本授業は、グローバル社会領域の導入的な授業であり、全二年生の必修科目の一つである。グローバル社会領域では、紛争、外交、人種・民族対立、国際協力、経済連携、ビジネス、格差、貧困、食料危機、地球環境、ジェンダー平等など「グローバルな社会問題」を学ぶ。グローバルヘルス領域や異文化コミュニケーション領域が人間個人レベルの諸問題に主に焦点を当ててのに対し、グローバル社会領域は政治学、社会学、経済学等の社会科学のアプローチを用いて、社会レベルの諸問題を主に分析の対象とする。この授業ではそれら社会レベルの問題を検討し、討議する。グローバルな社会問題を把握することで、ニュースや専門書を理解したり、それらを将来的に活かしたりするために必要な基礎知識を学ぶことを目的とする。		
到達目標	(1) 世界で起きていることについて、ニュースで見たり新聞で読んだりした事柄に関して自分なりの説明ができる (2) グローバル化した世界における現状と課題を理解できる (3) 自分の意見を述べられる発信力を持つ (4) 物事の見方は一つではないことを理解し、自分とは異なる意見も理解できる (5) グローバル社会領域のその他の専門科目を効果的に学習していく上での土台をつくる		
授業の位置づけ	展開科目（グローバル社会領域科目(GS)）		
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	【関連するディプロマポリシー（DP）】 DP① グローバル化が進む国際社会における人間とその社会的、文化的な営みを包括的に理解するため、自然と人間、生命と健康、人間と社会、世界と日本など国際教養に関わる広範な知識を習得し、それらを統合し、活用する能力 DP④ グローバル市民として活躍するための基盤となる国際的な教養に加え、文化を超えて活躍できる専門性（グローバル社会、異文化コミュニケーション、グローバルヘルスサービス領域）を備え、人類が直面する問題を発見し、解決策を探る多面的かつ柔軟な思考力と行動力		
履修上の注意、履修要件	基本的に課題はGoogleclass上で提出してもらうため、事前に本授業のGoogleclassに参加すること。本授業のGoogleclassへの招待メールはJ-Passで送るので確認すること。 感染の拡大状況によっては途中でオンライン授業に切り替わる可能性があるため、履修者は全員、Googleclassにある「授業の手引き」を事前に確認し、「オンライン授業参加にあたっての約束」の承認フォームを事前に提出すること（必須）。「約束」提出者にはのみ第2回目以降の授業のZoomパスワードが送付される。「約束」未提出者がZoomに参加した場合はパスワードを変更する。未提出者に新規パスワードを教えないこと。 授業内でディスカッションを行うこともあるので、ニュースを見たり新聞を読んだりして世界情勢について予めある程度情報を得ておくこと 何よりも授業参加者（受講生、教員共に）に対して礼儀正しく振舞うこと。意見を戦わせること自体は推奨される一方で、個人の人格を貶めたり、傷つけたりすることは許容されない。		
成績評価の方法			
評価方法	リアクションペーパー40%、レポート54%、事前予習課題6% 詳しい内訳については授業内で発表する。		
評価基準	各教員の課題の評価基準については、授業内で指示を受けること。 いわゆる出席点はありません。単に出席しただけでは単位をとることはできないので気をつけること。 60%以上の達成で単位認定となる。必修科目のため単位が取れなければ次年度に再履修となる。		
試験・課題等に対するフィードバック方法			
必要に応じて課題を授業内および授業後に返却する。あるいは授業内で全体的な講評を行う。			
テキスト			
参考文献			
教科書は指定しない。各トピックに関するものは授業内で都度紹介する。 参考文献として下記を挙げる。 藤森浩樹「アジアのエネルギー市場と気候変動」小林尚朗・山本博史・矢野修一・春日尚雄 編著『アジア経済論』第15章、文真堂、2022年03月発行予定			
その他			
連絡先・オフィスアワー	玉村教員：木16:30～17:30 佐々木教員：水13:30～14:30の時間帯にオンラインで対応します。ただし、諸事情により対応できない可能性や別の曜日・時間帯で対応できる場合もあるため、必ず事前にメールで連絡して下さい。 太田教員：木15:00～16:00 藤森教員・望戸教員：授業終了後にで質問を受け付ける。また、随時電子メールで質問を受け付ける。		
担当教員の実務経験			
備考			
授業計画			
授業	担当者	授業内容	授業方法 ※ 予習・復習・レポート課題等と学習時間

回			
1	玉村 健志、 佐々木 優、 太田 有子	イントロダクション	【予習】シラバスをよく読み、持参する。 「グローバル社会」とは何を考えてくる (90分) 【復習】講義の内容の振り返りを行うこと (90分)
2	玉村 健志	持続可能な発展	【予習】我々の住む世界が持続可能であるためにはどうすればよいのか、自分の意見を考えてくること (90分) 【復習】持続可能な世界の構築に自分ができることについてリアクションペーパーを書く (90分)
3	玉村 健志	国際機構とNGO	【予習】国際組織やNGOはなぜ必要か (不要ならなぜ不要か) 自分の意見を考えてくる (90分) 【復習】国際組織やNGOは誰にとってどのような場面で必要か/不要か、自分の意見を書く (90分)
4	佐々木 優	「衣」から考えるグローバル経済・ビジネス	【予習】私たちが消費している物やサービスが何処 (国や地域) で作られているかを調べること (90分) 【復習】講義の内容の振り返り、貿易の意義と弊害を考察し、自身の意見をまとめること (90分)
5	佐々木 優	「住」から考えるグローバル経済・ビジネス	【予習】日常生活の中でどれだけのモノを消費し、廃棄しているかを考えること (90分) 【復習】グローバル化とゴミ問題を結び付けて、その課題と改善策を考え、自身の意見をまとめること (90分)
6	玉村 健志、 佐々木 優、 太田 有子、 招聘講師 (天沼 耕平)	ゲストスピーカー講義	【予習】本やネットで難民やUNHCRに関する情報を収集すること (90分) 【復習】講演の内容の振り返り、また自分でも補足情報を調べ、リアクションペーパーを書く (90分) ※ゲスト講師のご都合により予定が変更になる可能性があります。授業内で告知しますので必ず授業に出席し、Googleclass等での通知も見逃さないようにしてください。
7	藤森 浩樹	中東世界の現況と今後	【予習】イスラム教とはどのような宗教なのか、メディアやインターネットで事前に調べておくこと。また中東とは世界の中でどのような地域なのか、自身で整理しておくこと。欧米や世界の他地域との対立の理由は何か、自分なりの意見を予め考えてくること (90分) 【復習】中東地域とイスラム教について、その特徴と課題をまとめたリアクションペーパーを書く (90分)
8	藤森 浩樹	アジアのエネルギー市場の特性	【予習】石油・天然ガスの二大エネルギーについて、その特性をメディアやインターネットで事前に調べておくこと。2021年に原油価格高がみられたがその主な要因は何か、自分なりの意見を予め考えてくること (90分) 【復習】エネルギー貿易について、日本を含むアジアにとっての課題やその対応策についてリアクションペーパーを書く (90分)
9	藤森 浩樹	気候変動：地球温暖化の現状と課題	【予習】地球温暖化や気候変動について、日本ではどのように取り組まれているのか、メディアやインターネットで事前に調べ、自分なりにまとめておくこと (90分) 【復習】気候変動への取り組みについてアジアを中心とする開発途上国にどのような協力をすべきなのか、をまとめたリアクションペーパーを書く (90分)
10	太田 有子	国際人口移動	【予習】世界の人口移動の概況について調べる。(90分) 【復習】授業で指定された課題文献を読んだ

科目名	異文化コミュニケーション概論	授業形態	講義
英語科目名	Intercultural Communication	開講学期	2022年度前期
対象学年	カリキュラムにより異なります。	単位数	2単位
代表教員	岡部 大祐	ナンバリング	4102
担当教員	岡部 大祐、齊藤 美野、今井 純子、原 和也、高濱 愛		
授業概要			
全体内容	<p>※本シラバスの記載内容は、対面授業を想定したものである。オンライン授業に切り替わった場合には、変更が必要となる可能性がある。変更の場合は、判明次第、Google Classroomを通じて受講生に周知する（なお、初回授業よりはJ-Passでの配信となることもある）。</p> <p>本科目は、異文化コミュニケーションを理解・考察するための基本理論・概念の習得を目的とする。講義、ワーク、意見交換などを通じて、異文化コミュニケーションに関わる理論・概念を具体例とともに学び、様々な現象を分析・考察する練習も行う。受講生は、協働作業も含めた作品制作課題発表、グローバルな社会的課題と関連したリサーチおよび意見交換などの諸活動を通じて、異なる考え方や価値観への気づきを得ることが期待される。</p> <p>大学の授業というコンテキストにおいても、異なる文化的背景をもつ人々のやりとりが行われていることに注意を向けながら、体験を通じた学びを積み重ねる。本科目での学びを通じ、受講生には、自己、他者、そして様々な現象を多様な視点から捉えることができる柔軟性に加え、異文化に対する許容力を備えた、異文化コミュニケーターへの道を主体的に探っていくことを期待する。</p> <p>本科目では上記に記した目的達成のため、事前学習を経ての授業内ワーク（ディスカッション他）を中心とした活動を行う。そのために指定文献の精読と理解確認フォームの提出といった事前準備が必須となることをあらかじめ明記しておく。</p> <p>本科目は、Google Classroomを介して必要情報が掲載される。したがって、履修者は全員Google Classroomへの参加が必要となる（Google Classroomへの案内はJ-Passを通じて行う。初回授業前日までに案内が届かない場合は、各自が担当教員へコンタクトすること）。Google Classroomへの不参加および参加の遅れによる成績上の不利益が生じて、一切の補填は行わない。各自、グローバル市民としての自覚をもって初回授業までにGoogle Classroomへの参加を完了すること。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 異文化コミュニケーション学の基礎理論・概念について説明できる。 異文化コミュニケーション学の理論・概念を用いて、文化相対的な視点から諸現象を分析・考察できる。 		
授業の位置づけ	展開科目（異文化コミュニケーション領域科目(IC)）／教職課程科目		
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	<p>DP① グローバル化が進む国際社会における人間とその社会的、文化的な営みを包括的に理解するため、自然と人間、生命と健康、人間と社会、世界と日本など国際教養に関わる広範な知識を習得し、それらを統合し、活用する能力</p> <p>DP② 自分とは異なる人間や文化を理解しようと心を開き、多様性を尊重し、寛容さを持って相互交流を図ることのできる能力</p> <p>DP③ 母語そして外国語でのコミュニケーション能力を駆使し、多様な人々と繋がり、自らの考えを論理的に説明し、相互の関係を築く能力</p> <p>DP④ グローバル市民として活躍するための基盤となる国際的な教養に加え、文化を超えて活躍できる専門性（グローバル社会、異文化コミュニケーション、グローバルヘルスサービス領域）を備え、人類が直面する問題を発見し、解決策を探る多面的かつ柔軟な思考力と行動力</p>		
履修上の注意、履修要件	<ol style="list-style-type: none"> 初回授業へ参加していること。初回授業時に説明したことが以降の授業の前提となる。 「授業の手引き」を確認したうえで、「オンラインを活用した授業参加にあたっての約束」の承認フォームを提出していること。 指定文献を事前に読む・課題提出を指定期間内に行う意志をもっていること。 		
成績評価の方法			
評価方法	<p>参加度（各回の成果物）（30%）</p> <p>中間試験（20%）</p> <p>ICプロジェクト課題（20%）</p> <p>期末試験（30%）</p> <p>上記の合計の達成度に基づき評価する（60%以上で単位認定）。万が一不正行為があった場合、直接間接にかかわらず関与した者は等しく処分対象とする。なお、コース全体の3分の2以上の出席が成績評価対象の条件となる。「出席」の考え方については下記参照。</p> <p>※ 本科目における「出席」とは、事前課題を完遂した上で講義に「参加」し、当該授業回の理解に至っていると担当教員が判断可能な成果物を提出することにより、あるいは指定の方法で遂行された課題を提出することにより認められるものである。単に講義の場にいるだけであったり、授業に無関係なものを課題として提出したりすることがすなわち「出席」となるわけではない。この点を十分理解した上で授業に臨んでもらいたい。</p>		
評価基準	<p>参加度（各回の成果物）・・・理解の適切性、記述の論理性、アイデアの独創性に基づく</p> <p>中間試験・・・理解の適切性に基づく</p> <p>ICプロジェクト課題・・・理解の適切性、記述の論理性、アイデアの独創性に基づく</p> <p>期末試験・・・理解の適切性、記述の論理性、アイデアの独創性に基づく</p>		
試験・課題等に対するフィードバック方法			
課題へのフィードバックは、講義内で行うことを基本とし、適宜Google Classroomも活用する。			
テキスト			
参考文献			
教科書：各回の授業の事前準備用のリーディング・パケットを配布する予定。			

参考書：以下はごく一部です。さらに興味関心のある受講生は担当教員までコンタクトしてください。
池田理知子・埴幸枝（編集）（2019）.『グローバル社会における異文化コミュニケーション—身近な「異」から考える』三修社
石井敏・久米昭元（編集代表）（2013）.『異文化コミュニケーション事典』春風社
石井敏・久米昭元（編集）（2005）.『異文化コミュニケーション研究法：テーマの着想から論文の書き方まで』有斐閣
伊藤明美（2020）.『異文化コミュニケーションの基礎知識—「私」を探す、「世界」と関わる』大学教育出版
Ting-Toomey, S. & Chung, L.C. (2022). Understanding intercultural communication (3rd. ed.). Oxford University Press.

<ICライブラリ（教員推薦文献）>※こちらにある文献から期末試験も出題されます
ペイカー・モナ & サルダーニャ・ガブリエラ（編）（2013）.『翻訳研究のキーワード』藤濤文子（監訳）.研究社
本名信行（2012）.『英語はアジアを結ぶ』玉川大学出版
岩淵功一（2021）.『多様性と対話 ダイバーシティ推進が見えなくするもの』青弓社
久保田竜子（2018）.『英語教育幻想』筑摩書房
倉沢愛子（2021）.『増補 女が学者になるとき：インドネシア研究奮闘記』岩波書店
小坂貴志（2017）.『異文化コミュニケーションのAtoZ—理論と実践の両面からわかる』（改訂版）.研究社.
メイヤー・エリン（2015）.『異文化理解力』田岡恵・樋口武志（訳）英治出版
中根千枝（1972）.『適応の条件』講談社
丹羽宇一郎（2019）.『人間の本性』幻冬舎新書.
鳥飼玖美子（2021）.『異文化コミュニケーション学』岩波書店
多和田葉子（2012）.『エクソフォニー：母語の外へ出る旅』岩波書店
寺沢拓敬（2015）.『「日本人と英語」の社会学—なぜ英語教育論は誤解だらけなのか』研究社
渡辺文夫（2002）.『異文化と関わる心理学』サイエンス社
山久瀬 洋二（2021）.『言い返さない日本人』IBCパブリッシング
柳文章（2017）.『近代日本語の思想：翻訳文体成立事情<新装版>』法政大学出版局

その他	
連絡先・オフィスアワー	各教員のオフィスアワー（本学部生専用ウェブに記載）を参照し、個別にコンタクトを取る。科目全体についての問い合わせは、Google Classroom設置の問い合わせフォーム（担当教員全員宛）もしくは岡部（d-okabe@juntendo.ac.jp）まで。
担当教員の実務経験	
備考	中・高教諭1種免許（英語）を取得するための必修科目 科目：教科に関する専門的事項（中学校及び高等学校 英語） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法※	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1 4/12	上記担当教員	なぜ異文化コミュニケーション学を学ぶのか？（岡部、今井、齊藤、高濱、原） 1) 異文化コミュニケーション学の射程 2) なぜ「今、ここ」で異文化コミュニケーションを学ぶのか 3) 改めて、大学で学ぶ心構え	PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表	【予習】本科目のGoogle Classroomに参加し、「オリエンテーション」を視聴し、シラバス内容を確認しておく（60分） 【復習】自分の学生生活、その後のキャリアに異文化コミュニケーション学が有意義であることを1分程度で説明できるように文章化する（60分）
2 4/19	上記担当教員	理論編（1） 「文化」をどのように捉えるか？（原） 1) 文化の三層構造モデル 2) 価値観・世界観	PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表	【予習】指定文献を読み、事前課題を提出した上で、「自分の問い」を立てて授業に臨む（90分） 【復習】授業で学んだことをノート等に整理し、曖昧な部分を調べて解決する（90分）
3 4/26	上記担当教員	理論編（2） 「コミュニケーション」と「文化」はどう関わるか？（岡部ほか） 1) 「コミュニケーション」へのまなざし 2) 「文化」と「コミュニケーション」の関係	PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表	【予習】指定文献を読み、事前課題を提出した上で、「自分の問い」を立てて授業に臨む（90分） 【復習】授業で学んだことをノート等に整理し、曖昧な部分を調べて解決する（90分）
4 5/10	上記担当教員	理論編（3） 異文化適応とカルチャーショックとは何か？（高濱） 1) 異文化適応のモデルを理解する 2) カルチャーショックについて学ぶ	PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表	【予習】指定文献を読み、事前課題を提出した上で、「自分の問い」を立てて授業に臨む（90分） 【復習】授業で学んだことをノート等に整理し、曖昧な部分を調べて解決する（90分）
5 5/17	上記担当教員	理論編（4） 異文化コミュニケーションにおける言語と文化とは？（今井） 1) グローバル社会での言語の捉え方 2) 国際語の文化とは？	PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表	【予習】指定文献を読み、事前課題を提出した上で、「自分の問い」を立てて授業に臨む（90分） 【復習】授業で学んだことをノート等に整理し、曖昧な部分を調べて解決する（90分）
6 5/24	上記担当教員	理論編（5） 翻訳はどのような異文化コミュニケーションなのか？（齊藤） 1) 翻訳とは何だろう？ 2) 3種類の翻訳	PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表	【予習】指定文献を読み、事前課題を提出した上で、「自分の問い」を立てて授業に臨む（90分） 【復習】授業で学んだことをノート等に整理し、曖昧な部分を調べて解決する（90分）

7 5/31	上記担当教員	理論編（6） 異文化コミュニケーションは偏見や差別にどう関わるか？ （岡部） 1）ステレオタイプ、偏見、差別の整理 2）偏見のコミュニケーション論	PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表	【予習】指定文献を読み、講義を視聴した上で、「自分の問い」を立てて授業に臨む（90分） 【復習】授業で学んだことをノート等に整理し、曖昧な部分を調べて解決する（90分）
8 6/7	上記担当教員	理論編から実践編へ 1）理論編の理解確認（中間試験） 2）実践編への展開の説明 3）ICプロジェクトの説明・グループ編成発表	PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表	【予習】ノートテイクをした理論編のキーワードとその意味を確認し、自分のことばで表現できるようにしておく（180分） 【復習】プロジェクト要領をグループメンバーと確認し、理解を共有しておく（90分）
9 6/14	上記担当教員	実践編（1）ゲスト講義 異文化コミュニケーションを生きる（1）領域を越境してつなぐ 多文化共生・社会的統合を考えるー難民と価値観に着目して（大槻茂実（東京都立大学）※ゲスト講師） 1）メソレベルへの着目 2）政治への参加	講義、グループワーク、討議、発表	【予習】指定資料を読み、ゲスト講義の準備を行う（90分） 【復習】学んだ点をICプロジェクトに活かす方法を考える（90分）
10 6/21※ 変更可能性あり	上記担当教員	実践編（2） 異文化コミュニケーションを生きる（2）領域を越境してつなぐ 異文化コミュニケーションとグローバル社会（上映会（予定）） ※この日は「グローバル社会概論」との合同セッションとなり、ランチタイムからの実施となります。	講義	【予習】ゲスト講義の資料を振り返り、それらを異文化コミュニケーション学の理論的理解とどうつなげるか自分の考えをまとめておく（90分） 【復習】学んだ点をICプロジェクトに活かす方法を考える（90分）
11 6/28	上記担当教員	実践編（3）ゲスト講義 異文化コミュニケーションを生きる（3）領域を越境してつなぐ 小ヶ谷千穂先生（フェリス女学院大学）※ゲスト講師 ※内容はTBA	講義、グループワーク、討議、発表	【予習】指定資料を読み、ゲスト講義の準備を行う（90分） 【復習】学んだ点をICプロジェクトに活かす方法を考える（90分）
12 7/5	上記担当教員	実践編（4） [ICプロジェクト・ウィーク：制作編1] 異文化コミュニケーション学にもとづく作品制作を行う。	PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表	【予習】作品制作に必要な調べ物を行う（120分） 【復習】グループでのワークを整理し、作品を完成させ、提出する（180分）
13 7/12	上記担当教員	実践編（5） [ICプロジェクト・ウィーク：制作編2] 1）作品制作を続ける。教員に中間報告をし、フィードバックを得て、完成させる 2）作品発表の準備を行う	PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表	【予習】作品制作に必要な調べ物を行う（120分） 【復習】グループでのワークを整理し、作品を完成させ、提出する（180分）
14 7/19	上記担当教員	[ICプロジェクト・ウィーク：発表編] 1）クラスメイトに作品を発表する 2）クラスメイトの作品を鑑賞し、コメントを執筆・提出する 3）教員からのフィードバックを受け、異文化コミュニケーションの理解を深める	PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表	【予習】ICプロジェクトの批評に向けてこれまでの理論・概念を確認する（90分） 【復習】ICプロジェクトのグループ成果物のレビューから曖昧な理解を同定し、調べて明らかにしておく（180分）
15 7/26	上記担当教員	期末試験とコースの総括 1）期末試験 2）本コースのまとめ	試験、講義	【予習】指定文献を授業内容と関連付けて読み込んでおく（300分）異文化コミュニケーション概論での学びがどのような点で自分のキャリアに有用でありうるのかを共有できるように準備してくる（90分） 【復習】自分が解答できなかったもの、曖昧であったものをノートや文献で確認し、明確化する（60分） 「大学で『異文化コミュニケーション』について何を学びましたか」という面接官からの質問に対する答えをまとめてみる（30分）

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	グローバルヘルスサービス概論		授業形態	講義
英語科目名	Global Health Service		開講学期	2022年度前期
対象学年	カリキュラムにより異なります。		単位数	2単位
代表教員	加藤 洋一		ナンバリング	4103
担当教員	加藤 洋一、木南 英紀、鈴木 美奈子、ニヨンサバ フランソワ、阿曾沼 元博、田村 好史、湯浅 資之、白山 芳久、大野 直子、峰松 義博、吉澤 裕世			
授業概要				
全体内容	健康は誰にとっても非常に重要であるにかかわらず、先進国のヘルスケアシステムは年々増加する莫大な費用に対応できず、限界に達しつつある。開発途上国では、熱帯風土病が今も大きな課題であり、同時にグローバル化している。これらグローバルヘルスの課題について理解するとともに、その解決に向けての行政、企業、医療サービス提供側の対応について学習する。その前提として、人の健康がいかにして保たれているかを知り、個人が自らの健康を管理していく時代が来ていることについて理解を深める。			
到達目標	1. グローバルヘルスサービス各論を学ぶ上で、問題の所在がどこにあるかを説明することができる。 2. 現代の国際社会に求められるヘルスリテラシーにつき、その重要性と日本の抱えている問題点について説明することができる。 3. 健康を守るというローカルな営みに、グローバルな関与が求められる理由は何なのかについて意見を述べるることができる。			
授業の位置づけ	展開科目（グローバルヘルスサービス領域科目(GHS)）			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	【関連するディプロマポリシー（DP）】 DP① グローバル化が進む国際社会における人間とその社会的、文化的な営みを包括的に理解するため、自然と人間、生命と健康、人間と社会、世界と日本など国際教養に関わる広範な知識を習得し、それらを統合し、活用する能力 DP② 自分とは異なる人間や文化を理解しようと心を開き、多様性を尊重し、寛容さを持って相互交流を図ることのできる能力 DP④ グローバル市民として活躍するための基盤となる国際的な教養に加え、文化を超えて活躍できる専門性（グローバル社会、異文化コミュニケーション、グローバルヘルスサービス領域）を備え、人類が直面する問題を発見し、解決策を探る多面的かつ柔軟な思考力と行動力			
履修上の注意、履修要件	一方向的な講義ではなく、講師と学生が双方向に意見を交換する授業形態を目指すので、学生の積極的な参加を期待する。			
成績評価の方法				
評価方法	講義への出席（および参加度）、リアクションペーパー、定期試験を踏まえ総合的に評価する。			
評価基準	-			
試験・課題等に対するフィードバック方法				
必要に応じて授業内で返却予定。				
テキスト				
参考文献				
テキストは使わず、毎回のテーマに沿った参考文献を、担当教員より指示する。				
その他				
連絡先・オフィスアワー	各教員のオフィスアワーを確認すること。専任教員以外は原則として授業の前後とする。			
担当教員の実務経験				
備考				
授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法※	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	木南 英紀	・グローバルヘルスとは何か ・過去のグローバルヘルスの取組み例 ・今日のグローバルヘルスの課題 ・グローバルヘルスの発展に重要な予防医学		【予習】各国における平均寿命と収入との関係を調べること。（90分） 【復習】グローバルヘルスの重要な知識・情報を世界の人人々と共有することの重要性を理解すること。（90分）
2	ニヨンサバ フランソワ	グローバルヘルスの視点からの感染症		【予習】三大感染症と新興感染症について教科書・Web検索情報に目を通しておくこと。自己学習を行う。（90分） 【復習】授業で学んだ知識について、教科書の内容を再読して知識を整理する。（90分）
3	加藤 洋一	現代の国際社会に求められるヘルスリテラシー		【予習】ヘルスリテラシーの定義を調べ、「グローバルな疾病負担」(GBD)のデータベースをウェブサイトで確認しておくこと。（90分）

				【復習】授業内容の振り返りを行うこと (90分)
4	鈴木 美奈子	21世紀の健康戦略：ヘルスプロモーションの歴史・概念・実践について学ぶ。 特に、オタワ憲章とバンコク憲章を中心に学習する。		【予習】ヘルスプロモーションに関するオタワ憲章とバンコク憲章に目を通しておくこと。(90分) 【復習】ヘルスサービスの方向転換についてまとめておくこと。(90分)
5	鈴木 美奈子	企業におけるCSRと健康経営について、ヘルスプロモーションとの関連から学ぶ。グローバル社会を意識した新たなヘルスサービスやヘルスマネジメントについて考える。		【予習】CSRや健康経営について調べておく。(90分) 【復習】CSRや健康経営とヘルスサービスとの関連についてまとめておく。(90分)
6	田村 好史	糖尿病とヘルスケアシステム		【予習】糖尿病とその予防について教科書・Web検索など自己学習を行う。(90分) 【復習】授業で学んだ知識について、教科書の内容を再読して知識を整理する。(90分) 糖尿病患者数は増加の一途を辿り、今後は予防的な取り組みが重要視されている。本章では、糖尿病の現状について講義し、その問題解決法についてグループごとに討議・発表することにより、糖尿病を取り巻くヘルスケアシステムについて理解を深める。
7	吉澤裕世	介護予防とヘルスケアシステム		【予習】介護の現状について教科書・Web検索など自己学習を行う。(90分) 【復習】授業で学んだ知識について、教科書の内容を再読して知識を整理する。(90分) 我が国は世界で最も早く高齢化が進んでおり、世界的に注目されている。寝たきり、介護は財政的にも本人家族のQOLにとっても深刻な問題として認識されているため、今後何らかの打開策が必要である。本章では、介護の現状について講義し、その問題解決法について討議・発表することにより、介護を取り巻くヘルスケアシステムについて理解を深める。
8	峰松 義博	多岐にわたる(氾濫する)健康関連情報を元に、社会科学の視点から、「健幸(康)」について考える		【予習】健康関連情報についてWeb検索で調べる(90分) 【復習】授業内容(健康情報)の概要を理解する(90分)
9	峰松 義博	自分や家族の健康ライフプランを考える(発表と議論)		【予習】自分や家族(親、子)の健康ライフプランを考える(90分) 【復習】健幸(康)について捉え直す(90分)
10	大野 直子	グローバルヘルスサービスにおける医療コミュニケーション		【予習】(90分)ヘルスコミュニケーション/医療コミュニケーションの定義について調べておく。 【復習】(90分)予防・治療におけるヘルスコミュニケーションの役割についてまとめておく。(90分)
11	白山 芳久	ヘルス・サービスや社会医学を議論する際に前提となる保健統計、今回は人口(population)について学ぶ。 「世界の中の日本」を意識し、世界各地の成人の平均BMI、生産人口の割合、就学率、貧困率など、様々な統計データを参照する。人口構造(population structure)のアンバランスから生じる様々な課題をどのように乗り越えるか、解決策についても議論したい。		【予習】日本と世界の人口統計について自分なりに調べてくる(90分) 【復習】授業中に出された課題レポートに取り組む(90分)
12	阿曾沼 元博	情報化社会の進展と我々一人一人の関わりに関して「電子カルテシステム」を通して考える →病院内電子カルテの歴史と現状 →PHR(パーソナル・ヘルス・レコード)や遠隔医療の現状と課題 →AIの進展が電子カルテシステムに及ぼす影響		【予習】各病院が導入を推進している電子カルテシステムの概略を調べておく(90分) 【復習】医療情報の利活用に関しては、国の医療制度との関わりが強いが授業で論じる制度との関わりに関して確認する(90分)
13	阿曾沼 元博	PHRや遠隔医療の実用化プロジェクトを学ぶ →「経産省の”どこでもMy病院”プロジェクト」を解説する →最新ナショナルプロジェクト		【予習】地域レベルで行われている「地域医療情報システム」や患者中心の情報利活用の実態を調べておく(90分) 【復習】新たな仕組みを構築する場合、その

